

全中道研会報

令和6年10月1日 No.2

全日本中学校道德教育研究会
<https://www15.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1350010>



道德教育推進教師育成講座

令和6年度の道德教育推進教師育成講座は、下記のとおり、令和6年8月3日（土）、4日（日）の2日間にわたり、上廣倫理財団UFホール会場への参集21名とオンライン1名を合わせたハイブリッド型でグループ別研修と全体研修を実施しました。グループ別研修では受講者が6班に分かれ、全中道研事務局次長等がそれぞれファシリテートしました。

8月3日（土）

開校式

研修A（講演）「学習指導案の作成について」

研修B・C グループ別学習指導案作成

8月4日（日）

研修D 模擬授業準備50分

研修E グループ発表/模擬授業

研修F（指導・講評）

「グループ発表総括・道德教育推進教師に望むこと」

研修G（講演）

「『考え、議論する道德科の授業』の充実に向けて」

閉講式



研修AとFは、東京音楽大学 講師 森岡耕平 先生に、「学習指導案の作成について」と「グループ発表総括・道德教育推進教師に望むこと」を各テーマに、研修Gは文部科学省 井上 結香子 教科調査官に、「『考え、議論する道德科の授業』の充実に向けて」を演題として、それぞれご指導いただきました。研修の概要については、後述いたしますのでご参照ください。

研修B・Cは、受講者が「二人の弟子」について教材分析してきたものをグループ内で共有するとともに、その後の研修で検討する

教材を検討しました。グループ内での教材分析の議論を踏まえ、学習指導案作成に向けた検討を行いました。

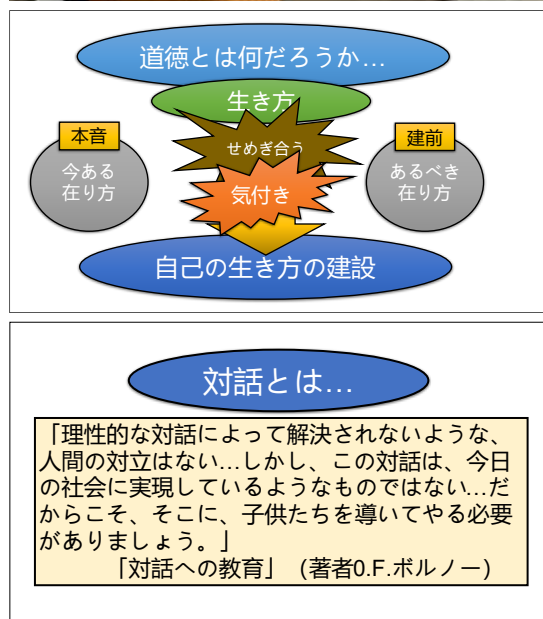
研修Dでは、グループごとに模擬授業の準備を進めました。模擬授業の形式で学習指導案を発表するため、より具体的な指導内容、指導方法等について議論を深めることができました。各グループの工夫に感心しました。また、2日間にわたるグループ協議、それもひとつの教材に時間をかけて、教材の特質を踏まえ、内容項目、主題、中心的な発問や指導過程について考え、議論する機会は、短時間で行う研修ではできない取組です。その意味では、腰を据えてじっくり検討することのできる、この道德教育推進教師育成講座の果たす役割と効果は大きいと思います。

研修Eでは、グループが考えた学習指導案を模擬授業として発表していただきました。発表後の振り返りの時間も十分にとれたのでたいへん充実した研修になりました。その後、教材分析や学習指導案作成等について、森岡 耕平 先生に改めて指導・講評をいただき、たいへん勉強になりました。

本年度も、受講者にPC等端末をご持参いただき、資料のペーパーレス化、共有フォルダの活用等を行いました。次年度は、当日参加された顧問の方々等とも資料や学習指導案が共有できるよう、受講者には事前課題をペーパーでも準備していただく工夫をいたします。インターネット環境は快適でした。

最後に、ご指導いただきました井上結香子教科調査官、森岡耕平先生、顧問・参与の皆様、本講座を受講された皆様、受講者を推薦していただきました理事、関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。（事務局）

研修A 講演「学習指導案の作成について」
講師 東京音楽大学 講師 森岡 耕平 先生



1 道徳科における評価

生徒が一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているかどうかという点については、例えば①道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしていることや、②自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていること、③複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を広い視野から多面的・多角的に考えようとしていることを発言や感想文、質問紙の記述等から見取るという方法が考えられる。

道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかどうかという点についても、例えば④読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしていることに着目し

たり、⑤現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直したりしていることがうかがえる部分に着目したりするという視点も考えられる。また、⑥道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めているか、⑦道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしているかという視点も考えられる。

評価に当たっては、生徒が一年間書きためた感想文をファイルしたり、1回1回の授業の中で全ての生徒について評価を意識して変容を見取るのは難しいため、年間35時間の授業という長い時間で見取ったりするなどの工夫が必要である。

道徳科における学習状況や道徳性に係る成長の様子の把握は、「各教科の評定」や「出欠の記録」等とは基本的な性格が異なるものであることから、調査書に記載せず入試の可否判定に活用することのないようにする必要がある。

2 道徳科の評価の進め方

(1) 授業の中での評価の進め方

ア 教材を読む。発問を考える。他者の意見を聞く。自ら発言する。話し合う。その様子を見取る。

イ ワークシートを活用し、考えたことを文章化させる。ただし、書く力だけを評価するものではない。

ウ ワークシートは「自分の気づきや考えたこと」「印象に残った友だちの考えや話し合ったこと」そして「授業の感想」が記述できるものを用意する。

エ 授業後に、ワークシートの意見にアンダーラインを付加する。(認め、励ます個人内評価の見方を磨く)(生徒が深く考えたこと、気付いたこと、一番言いたかったことを見取る。)

オ 書くこと、発言することが苦手な生徒には、机間指導、声かけから様子をつかむ。

授業メモを活用する。

(2) 通知表への表記を考える

ア 2つの方向性と7つの視点から学習状況について、認め、励ます言葉で評価する。

イ 1回の授業の見取りで評価できる生徒は限られている。複数回の中で見取る。評価する取り組み状況は、必ずしも回を追うごとにプラスの方向にのみシフトするものではない。

ウ 1人の授業者(担任)の目で見ても、見えるものと見えないものがある。ローテーションで授業者が変わることにより、それぞれに見える部分を共有し、生かして、指導と評価をつなぐ。

エ 最終的には、担任が一人一人の生徒に対して、思いを込め、その心に届くそれぞれのメッセージを考える。

4 生徒指導要録への表記

授業の中で一面的な見方・考え方が多面的・多角的になっている様子。自分事として深く価値を考えている様子を捉えた表現。話し言葉、メッセージ表現ではない書き方で学習の記録とする。



5 道徳科の評価にとって大切なこと

評価が生徒の心に届く授業者からのメッセージとなるためには、「生徒の理解」、「生徒からの信頼」が必要不可欠である。一人一人の生徒について、本人が気付いていないよさや持ち味を伝えたい。

評価に向けて授業を振り返る際、授業記録を取ることで有効である。一人一人の生徒の授業の様子を捉え、評価につなげることは、次の指導に向けて授業をどう改善すべきかを

捉えることにつながる。

研修F グループ発表総括・道徳教育推進教師に望むこと 森岡 耕平 先生

○各班への講評として「フキノトウの場面を深く掘り下げていた。」「黒と白という情景。この色の違いをどのように捉えていくか。この先どう生きていくのかという視点が表れていた。(智行の生き方の変化)」「智行のついでに問いに限定していく中で『上人の部屋に智行を向かわせた思い』などについて。全体としては、「智行の思い。その中で道信の生き方を触れる」ということについて。

○自分が「二人の弟子」を扱うなら、導入で流れを整理したいなら、ICTで映すなどの工夫をすることや、中心場面については「生き方として考えたい場面が中心になる」のではない。では、生き方として考えたい場面はどこか考えた時に、智行の心の動き(心理)ではなく、登場人物の生き方を読むようにする。

○「どうせ俺はこの程度の間人さ、ってね。・・・フキノトウを見たとき・・・」から始まる道信が修行に戻ろうとする場面については、明らかに道信の生き方が変わっている。智行の思いを追っていくと、心理の読み取り合戦になってしまう。「フキノトウになにを見たの?なぜやり直そうと思うの?」と問うことで、道信が気づいたことは「自分が生かされていることを本気で受け止めた。自分は何もわかってなかった。」という再び修行へ向かう思いを考えさせる。

生きとし、生けるものは、皆、生かされている。

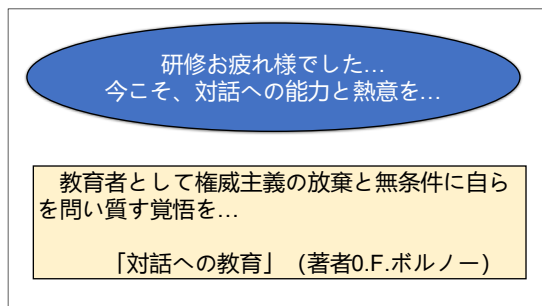
フキノトウに
何を見たのか
...



なぜやり直そう
と思ったのか...

自分が生かされていることを本気で受け止めた。
自分は何もわかっていなかった...

発問は「智行と道信ふたりの生き方どう思う?」「道信はフキノトウに何をみたの?どうして再び修行に戻ることを決めたの?」「自分と向き合って生きることはどうしたらできるのだろうか?」などにしたい。
○長い教材なので、焦点化しないとイケない。生き方を考えられるようになっていくか。



研修G 講演 『考え、議論する道徳科の授業』の充実に向けて (要旨)

講師 国立教育施策研究所教育課程研究センター教育課程調査官 (併任) 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

井上 結香子 先生



○教師の学びの姿も、子どもたちの学びの相似形である。(R4 答申より)

○ D よりよく生きる喜びについて

「人間は一茎の葦にすぎない。自然の中でもっとも弱いものである。しかしそれは考える葦である。」(パスカル『パンセ』)

パスカルは、人間が自分のみじめなことを知っている点で偉大である。人間は悲慘と偉大、虚無と無限の間をさまよう中間者ということも言っている。

①令和の日本型学校教育と道徳教育について
急激に変化する時代の中で、一人一人の児

童(生徒)が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められている。

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して、主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善によって、上記の資質・能力を育成することが大切である。

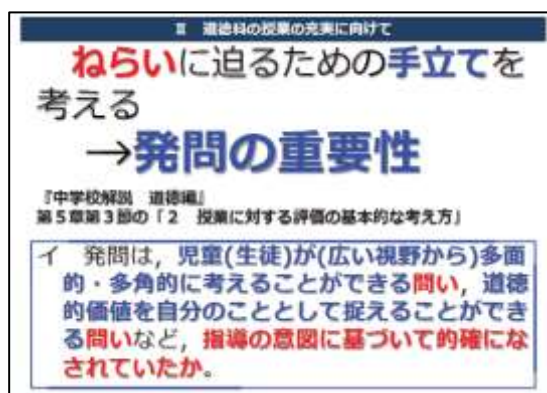
②道徳科の授業充実に向けて

量的課題については、多くの学校で改善されてきているところではあるが、年間 35 単位時間以上の道徳科の授業の量的確保は必須である。例えば、クラウドに毎時間の板書を写真に撮って、そこに本時のねらいや生徒の反応などのコメントとともに保存するという取組は、相互に学び合う契機となる一方で、カリキュラム・マネジメントの視点からも活用できるかもしれない。質的課題については、問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫することも求められている。

Ⅱ 道徳科の授業の充実に向けて	
学校教育における道徳教育での道徳性の捉え方	
道徳的判断力	それぞれの場面で善悪を判断する能力
道徳的心情	道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情
道徳的实践意欲	道徳的判断力や道徳的心情を基盤とし道徳的価値を実現しようとする意志の働き
道徳的態度	道徳的判断力や道徳的心情に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

道徳科の目標には、生徒が道徳性を養うために、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てることが示されている。道徳科の学習は、「人生いかに生きるべきか」という生き方の問いを考えると言い換えることができ、道徳科の指導においては、生徒のよりよく生きようとする願いに応えるために、生徒と教師が共に考え、共に探求していくことが前提と

なる。授業のねらいの設定に当たっては、生徒の実態の把握、内容項目の理解、道徳的諸様相の理解、教材の把握が大切である。



また、考える必然性、切実感のある発問、自由な思考を促す発問、物事を多面的・多角的に考えたりする発問などを心掛けることが大切である。頭では分かっていると思っている道徳的価値について、様々な体験、出会い、会話などを手掛かりに、自己とのかかわりを問い直すことで、そこから本当の理解が始まる。生徒が「自己を見つめ」「広い視野から多面的・多角的に」考える学習活動において、「道徳的諸価値の理解」と「人間としての生き方についての考え」を相互に関連付けることによって深い理解、深い考えとなっていく。



道徳科の学習指導過程でのICT活用例について、例えば、終末では書く活動を取り入れていることがあるが、書く活動は、生徒が自ら考えを深めたり、整理したりする機会として重要な役割をもつ。また、学習の中で個別化を図り、生徒の感じ方や考え方を捉え、個別指導を進める重要な機会にもなる。ICT

を活用した振り返りについて「道徳教育アーカイブ」の実践事例でいくつか紹介している。毎回の振り返りの他に、定期的に印象に残った授業や自分の学び方について振り返る取組や、振り返りの際の視点を示す取組、年間を通して考えたい問いを年度当初に設定し、定期的にその問いについての自身の考え方を書く取組などがあり、生徒が自己を深く見つめることや、自身の学びを振り返り成長の様子を実感することに繋がっていると考えられる。

③おわりに

生徒の「主体的・対話的で深い学び」「総合・学活・道徳」の取組状況と「自己有用感等」の間には正の相関が見られる。道徳教育の要である道徳科において、引き続き、「考え、議論する道徳」への質的転換、質的充実、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図っていく必要がある。

受講者の声（事後アンケートより）

※受講者 22 名中 15 名より回答

Q 育成講座に参加しての全体的な感想はいかがでしたか。

大変参考になった (14人)

参考になった (1人)

あまり参考にならなかった (0人)



Q 研修A「学習指導案の作成について」(講演：森岡耕平先生) 研修F「グループ発表総括・道徳教育推進教師に臨むこと」(指導・講評：森岡耕平先生) についてのご感想・ご意見をお聞かせください

○対話の重要性について再認識できました。

また、導入について、「教材・価値・授業」

の3つに分類する見方は、地区の先生方にも還元できることのひとつであると感じました。教材の解説について、道信の場面を中心発問に据えていたことも興味深いものでした。

○先生方との検討を通して、「生徒」の立場として考えることができた。また、指導方法の工夫についても学ばせていただき、今後の指導方法に取り入れていきたいと思った。「生き方についてどう変容したか」という視点を大切にして教材分析をしていきたい。

○様々な切り口からの考え方、とても勉強になりました。

○道徳科における対話を通した授業を行うことの意義について大変勉強になりました。



○私自身も対話の重要性について日々考えているところです。VUCAの時代であるからこそ、またAIやデジタル機器の発達している現在であるからこそ、人同士の対話については重要性が格段に増して生きていると考えます。

○普段中心発問をどこにするかと考えがちだったのですが、どの場面の生き方を考えさせるかというお話が特に印象的だった。今後も生かして教材研究していきたい。

○大変勉強になりました。森岡先生には何度も御指導いただいておりますが、毎回新しい視点が得られます。今回はボルノーやキューバ危機等を例に挙げられながら「対話」の可能性へ言及されていたところが特に印象に残りました。まずは、教員自身が「対話」の力を信じなければいけないのだなと反省しました。また、教材分析シートは校

内研修等でも活用していきたいです。

○道徳の授業づくりに求められることがよくわかりました。

○大変勉強になりました。ありがとうございました。

○道徳についての難しさやその解決策、考え方について現場の実践に即しながら、分かりやすく講話をいただきました。道徳の時間は、「より良い生き方について、共に考え共に語り合う時間である」という言葉が印象に残りました。今後の指導に活かしていまいます。

○道徳の授業にあたって、生徒も教師もワクワク、ドキドキできる授業づくりが道徳的な感性や深い学びにつながると感じました。教材研究を行う上で、教師側が楽しむこと前提に構成していくことで生徒も楽しく授業へ入っていけるかなと感じました。あとは、道徳に答えはなく、白黒はっきりせずにグレーゾーンをどう引き出していけるかということに教師側がいろんな発想を想定した上で、構成していくことが大切と思いました。

○最後に、人間とは対話を通じて自分自身や他者との関係性、社会を作っていくことが大前提であると学びました。対話があるからこそ、人間として生きる価値があると感じました。

「生き方」を読むというところがとても勉強になりました。今回の指導案づくりのなかでも、グループ内でも教材の捉え方についてさまざまな意見があるなかで1つの指導案をつくりあげました。

○どうしても、心理に目を向けてしまう傾向があると感じました。

○森岡先生から示していただいた、展開でもまた授業をしてみて、授業づくりについてさらに学びを深めていきたいと思いました。

○とても勉強になりました。特に、二人の弟子の発問構成については、いつも通りの、

悩んでいる人間の心情を考えることや、主人公の心情を考えることにまだまだとらわれていたことに気がきました。新しい視点をもってもれからは授業を考えていこうと思います。

○丁寧に関わりやすくお話をいただき、どちらも多くの学びがありました。また、研修Fにおける、「道信の変化」「フキノトウへの着目」は、心のモヤモヤが晴れた気がしました。

○本音と建前のせめぎ合いから得る気づきなど、日々の道徳実践の前に、道徳科を進めることについて再定義できたような、すっきり感がありました。多くのことを学ばせていただきました。

○わくわくする導入、道徳というキーワードを意識し、これからの道徳の授業を構成していこうと思いました。

○大変勉強になりました。学習指導案の作成について、道徳推進教師として、自分自身だけでなく、周りの先生にどのようにアプローチして良いか悩んでいました。少し、解決する方法が分かりました。

Q 研修G「考え、議論する道徳科の授業の充実に向けて」(講演：井上結香子先生)についてのご感想・ご意見をお聞かせください。

○自分自身の学びとしてだけでなく、地区の先生方にも伝えていきたいです。質の充実を目指して、道徳科の授業や授業作りの楽しさについて多くの先生方に感じてもらえるよう、私自身も学び続けたいです。

○これまでの授業方法に囚われすぎず、生徒の実態に応じて多様な方法を検討してきたい。

○先週もお話を聞かせていただきましたが、また違った観点からのお話で勉強になりました。

○自己有用感と道徳との正の相関関係につい

て、道徳教育を推進する上で、大変勇気づけられるお話をいただきました。具体的で実践をしておきたくなるような分かりやすいご講演をありがとうございました。勤務校で実践していきたいと思います。

○道徳教育は生徒に有効であるということを知ることができて、自信をもって道徳の授業を行って行きたいと思う。

○『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」をベースとしながら、道徳の授業で大切にすべきポイントを分かりやすく解説していただきました。その際に学習指導要領のどの箇所を根拠として考えるべきかを具体的に提示していただけたので大変勉強になりました。体験型、問題解決型の授業も年間授業計画に組み込んで行きたいです。また、ICTの授業実践事例はとても刺激的でトライしてみたいものもありました。新しい取り組みはしばらく続けていかないと、成功しないと思いますが、35時間しかないのもので、そこが悩みどころです。小さなことから始めていきたいです。



○道徳科を推進するにあたって、法的な根拠やその他参考になる答申等をお示しいただいたことが非常に参考になりました。

○学習指導要領の読み方や各校最先端のICTの実践に触れることができ、大変参考になりました。道徳性を養うという目的を忘れずに、何が最適化を常に考えながら方法や手法を実践していきたいと考えました。

○学習指導要領をもとに、令和の道徳教育についてどのように進めていくことで深い学びや主体的に取り組む姿勢を育むことがで

きるかということに深く考えることができました。

- 「道徳は道徳性を養う時間」ということを改めて意識し、日頃の実践にいかしていきたいと感じました。社会構造の変化から道徳に求められていること、全国の実践から道徳の質的転換に向けて行われている内容なども具体的に学べて良かったです。
- 教師の学びの姿が生徒の学びの姿につながるということも、校内で意識し教育にあたりたいと思います。
- 大変参考になりました。校内の先生方とお話すると、道徳は昔からスタイルを変えずにやっている、同じことを繰り返している、という意見が出ます。しかし、未来の創り手となる生徒を育成するためには教師も考え方や、指導を常にアップデートしていかなければならないと改めて感じました。



- また、多様な指導方法も大変参考になりました。特に、年間を通して自分が考えたいテーマをもつ取組は、本校でもぜひ来年以降実施したいと思います。
- 井上先生のお話を伺うたびに、校長として、「要の時間」の道徳の時間と、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育について考える機会となりますので、これからの学校運営に対するヒントをいただいております。次年度に実現すべく準備をおこなっているところです。
- 個別最適な学びや協働的な学びの意義について、道徳を経由しながら教えていただき大変勉強になりました。子供達の道徳性は、道徳の時間を軸に、やはり教育活動全体と

して得ていくものなのだと実感しました。

- 私たち教員が道徳を楽しまないと、生徒も変わらないということがわかりました。
- 井上先生のお話を初めて聞かせていただき、新たな視点でのお話で、とても分かりやすかったです。職場に戻り、共有させていただきます。

Q グループ協議に参加しての全体的な感想はいかがでしたか。

- 大変参考になった (15人)
- 参考になった (1人)
- あまり参考にならなかった (0人)



Q 研修B・C・D・E（グループ協議、模擬授業）についてのご感想・ご意見をお聞かせください。

- ねらいや内容項目については共通の認識のもと進めることができたので、発問と問い返しの検討に時間をかけた。何度も検証することが楽しかったです。
- 問い返しや話し合いの形態について勉強になりました。



- これまで自分が勉強してきたことが間違えていないことに気付くとともに、新たな視点での考えも養うこともできました。

○各地区の先生方と対話をする中で、良い意味で「当たり前」の授業展開が崩れていく体験をさせていただきました。先生方の授業づくりをしていくなかで、建設的な議論をすることができ、新たな視点を持ち帰ることができました。同じ県、市で勉強会ではできなかった体験をさせていただきました。

○さまざまな授業案、指導法を聞く機会になって、指導方法を蓄えることができた。また、さまざまなことについて議論を重ねていくのがとても楽しく感じた。



○Aグループでは、事前課題の共有からスタートしました。その際に、所属する自治体の取り組みや研究、独自の指導案作成の視点等が紹介されました。全国の様々な実態や実践を知ることができ、大変刺激的でした。ドキュメントを共同編集しながら学習指導案を作成できたことも良かったです。



○いずれのグループの発表においても参考になる点がたくさんあり、大変勉強になりました。

○一つの教材をみんなで練って作り上げる研修は、色々な人の意見がとても参考になり、新たな気づきや学びを得ることができました。また、実際に模擬授業をすることで、

道徳の難しさやだからこその面白さを体感することができました。

○いろいろな地域からいろんな考えを持った方々との対話によって、自分自身が気づかない点や全く違った着目点に驚きの連続でした。それを持ち帰り今後の教育に繋げていきたいです。



○ファシリテーターの先生に助けられながら、グループなりの授業がつくれたと思っています。これまで道徳について学んできた背景が違うなかで、グループ協議ができたのも学びが深まりました。50分という限られた時間の中で、授業をすることの難しさ、教材をどう読み取るのかに苦労しました。質的転換が求められているなかで、学びが多い研修時間でした。2学期以降の実践にいかしていきたいと感じました。

○Bグループは活発な意見交換ができました。ファシリテーターの先生がみなさんの意見をまとめながら進めてくださいました。



○今年のグループは、ご自身の意見を述べるとともに、他者の意見に耳を傾ける事のできる方ばかりで、前向きな話し合いになり、充実した時間になったと感じております。

○Cグループのファシリテーターの先生が、適切に議論を導いてくださり、それぞれの

先生方の意見、良さがいかされる素晴らしい時間だったと思います。

- 様々な県の先生方と交流、そして意見を出し合い指導案、模擬授業を考えることで、今までに自分の中にはなかったら発想や、技法を知れてとても勉強になりました。
- とても、前向きな方ばかりで、楽しく協議することができました。来年もぜひ、参加させていただきたいです。



Q 今後の運営のために、お気づきの点やご意見等をお聞かせください。(抜粋)

- 授業検討する上で、ホワイトボードがある部屋で大変良かったです。様々な面で間違い・御準備をいただき感謝しておりますが、PCを使っの研修であったため、充電しながら受講できる環境が充実するとさらにありがたいです。



- 施設も素晴らしく快適に過ごすことができました。ありがとうございました。
- 模擬授業で使用する掲示物を印刷するプリンターもあるとなおよいと思います。
- 他の自治体の方との交流も大変有意義でした。

- 座席の配置や班編成も他の自治体の方との交流がしやすくなっており、大変ありがとうございました。



- もしよければ、来年度は全国の優れた実践や取り組みを紹介する講座もあっても面白いかと考えました。
- 初めての参加で不安でしたが、全国各地から集まり様々な意見を聞かせていただき良い研修となり貴重な経験ができました。ありがとうございました。



- 今後とも、質的転換がはかられていくよう、このような研修会が続いていくことが大切だと感じます。
- 道徳のことだけを考えて過ごすことのできる幸せで充実した時間となりました。

